

学校研究

① 研究主題及び副題

『自ら考え、表現する子の育成 ～ 学び合いを大切に～』

② 主題設定の理由

昨年度、主題を「自ら考え、表現する子の育成 ～見方・考え方を重視した指導の工夫～」として研究を進めてきた。重点①「考えを表現させるための手立て」では、児童に働かせる見方・考え方を明確にして、教材提示の仕方や発問を考えたり、児童が三角ロジックを用いて話すことができるよう問い返したりすることで、見方・考え方を働かせる表現をさせることができてきた。重点②「学びを自覚させるための手立て」では、適用問題で理解を図るなど、学びの自覚化につながる手立てを講じてきた。しかし、各教科の用語を正しく理解して表現する力や、根拠を明らかにして表現する力、書く表現力の育成には課題が残った。また、授業の終末の時間を十分に取るためのタイムマネジメントが不十分であったり、児童に学びの自覚をさせ自信をもたせるまでには至らなかったりした。さらに、本校の児童は教師の指示に従い着実に学習内容に取り組むことはできるが、進んで学んだり友達と関わったりする姿があまり見られない。それには、教師主導の授業が多いことも要因の一つと考えられる。つまり本校の児童は、友達との関わりの中で学んだことを再思考して学びを自覚し自信をもつことが必要なのである。

そこで、今年度も表現することを重視し「自ら考え、表現する子の育成」という研究主題を設定した。主体的に学んだり友達の考えをもとに考えを高め再思考したりするには友達との関わりの中で学ぶことが大切と考え、副題を「学び合いを大切に」とした。学び合いをするためには、教師が全員参加の授業を目指し、教師主導ではなく児童に関わらせる授業をすることが大切である。

主題に迫るための重点を、①「みんなで高め合うための手立て」、②「学びを自覚させるための手立て」とし、集団検討の場においてクラスみんなで関わりながら学習内容を理解し、授業の終末で再思考し学びを自覚することを目指す。教師の価値付けにより自信がつけばそれが児童の達成感となり、自ら考え表現していこうという思いになり、研究主題に近付いていくであろう。

重点① みんなで高め合うための手立て

高め合うとは友達との関わりの中で、「考えがもてなかった子が考えをもつ」、「考えが変容する」、「考えが確かになる」ことである。関わりを生むために教師は、授業の山場を意識し授業の中で教えることと考えさせることを明確にして教師の出場を見極めなくてはならない。矛盾をついたり対立したりするような課題提示を工夫することも有効である。児童には反応しながら話を聞かせたり、三角ロジックを使った分かりやすい話し方をさせたりしていく。話し合いの形態を工夫することでも児童間の関わりが生まれるであろう。考えを高めるためには授業の中の集団検討の場で児童の考えの共通点や相違点を比較して考えさせたり、不十分な考えを補ったり合わせたりしていくことが重要である。そのために教師は、児童が考えやすいような板書を考えたり見方・考え方を働かせるような発問を厳選したりすることが大切である。

重点② 学びを自覚させるための手立て

集団検討の場で理解した学習内容を授業の終末で再思考し、学びを自覚することにより、達成感や充実感を感じ今後の学習につながり生かされる。その自覚には、見方・考え方を働かせてまとめや振り返りを書いたり、適用問題を自分の力で解いたりすることが大事であり、そのためにキーワードを板書することが有効である。また、児童が書いて残したものをもとに教師が評価し価値付けることも必要である。そして、児童が自覚したか、またその時間に身に付いた学習内容が次の学びの見方・考え方となるよう学びが連続していく振り返りを書かせ、見取ることも大切である。終末の時間と内容を充実させることで、学びを自覚しみんなで学ぶ喜びを感じられるようにしたい。